

紙 季 折々

しき*ありあり

日本製紙グループ

環境・社会コミュニケーション誌

Vol.8

地球にやさしいモノ作りって何だろう？

私たちの身の回りでは、毎日多くの製品が生み出され、消費されています。「地球温暖化」「資源枯渇」「動・植物の絶滅」など環境問題がますます深刻化・多様化する現在。製品開発も無関係ではいられません。そこで生み出されているのが「環境に配慮した製品群」、エコプロダクツと呼ばれるものです。環境への配慮と言っても省エネに省資源、リユースやリサイクルなど、方法は実に様々。今号では、エコプロダクツを通じて、地球にやさしいモノ作りについて考えていきます。

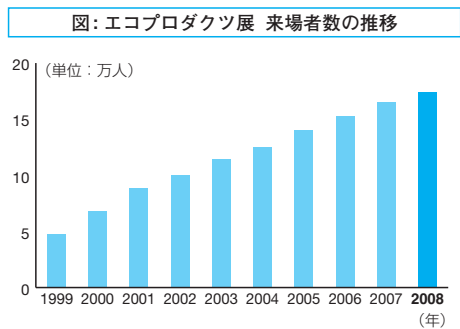


2008年12月に開催されたエコプロダクツ展の様子

エコプロダクツへの期待の高まり

2008年12月、環境にやさしい製品を集めた日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2008」(社団法人環境管理協会、(株)日本経済新聞社主催)が開催されました。その来場者数は、3日間で約17万4000人。9年前の初開催時と比較すると約3.7倍(図)に急拡大しており、環境への関心とともにエコプロダクツに関する注目が高まっています。

地球環境を考えれば「自動車や飛行機に乗りたくない」「電気製品は使わない」など現代を象徴する「便利な生活」を捨ててしまうのが最も環境にやさしい生き方かもしれない。しかし、便利な世の中に慣れてしまった私たちが、全てをすぐに手放すことは難しいのも事実です。エコプロダクツの使用は、今までの生活

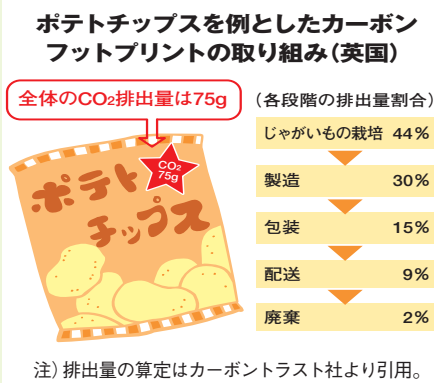


を通じて環境配慮をするという考え方は(コラム参照)。紙作りを例にしても、①古紙の使用や森林認証を取得した森林資源の利用、②製造時の二酸化炭素(CO₂)排出量の削減、③紙の軽量化などによる省資源化、④古紙回収の促進など、これらが全てではありませんが、様々な取り組みを進めながら紙作りを行っています。

コラム CO₂排出量を見える化する取り組み(カーボンフットプリント)

「エコプロダクツ2008」でも、注目を集めた「カーボンフットプリント」。近年、この言葉を耳にする機会が増えましたが、どのようなものなのでしょうか?

カーボンフットプリントとは、私たちの生活の中で消費されているモノやサービスが、原材料の調達・製造・輸送・使用・廃棄といったライフサイクルを通して排出する温室効果ガスの量をCO₂に換算して表したものです。そのCO₂排出量をラベルなどに表示して「見える化」することにより、①消費者に対して、排出量のより少ない商品の購入、②企業に対して自社商品の排出量削減、をそれぞれ促すという2つの効果が期待されています。また、商品のCO₂排出量が身近になることで、消費行動が地球温暖化にどの程度影響を与えているのかを消費者が知る良いきっかけになりそうです。



を大きく変えることなく、環境負荷を減らすことを可能にします。そのため、少しでも環境負荷の低い製品の開発とその製品の使用拡大が強く望まれています。

様々な環境問題に対応

環境にやさしい製品と聞いたときに皆さんはどのような製品を思い浮かべるのでしょうか? 近年、ニュースで取り上げられることの多いハイブリッドカーを思い浮かべる人も多いと思いますが、これは電気の併用によって石油の使用を減らす、地球温暖化問題に対応した製品です。また、リサイクル製品のように、資源の有効利用を通じて、資源枯渇問題などに配慮した製品もあります。他にも「動・植物の保全」や「有害



日本製紙グループの取り組み

日本製紙グループは、人々の暮らしを支え、文化の発展に寄与してきた紙の製造を基盤として、幅広い事業活動を展開しています。今後も原材料の調達から製品の廃棄・回収までのライフサイクル全般を見据えた上で、幅広い視点で環境について考えていくとともに、様々なご意見をいただきながら、環境にやさしい製品作りを目指していきます。

日本製紙グループのエコプロダクツ紹介(一部)

◆STボード(紙製選挙用ポスター掲示板)

「STボード」は、再生紙を活用して作られた板材で、選挙用のポスター掲示板として使用されています。従来、掲示板には合板が使用されていましたが、再生紙を原料とすることで、使用後も古紙としてリサイクルが可能になり資源リサイクルを推進します。



選挙などで使われるSTボード

◆紙製通い箱

日本大昭和板紙(株)

芯材に100%古紙を使用した「紙製通い箱」は繰り返し長期間使用することができ、資源の有効利用に貢献しています。また、強度を保ちながら軽量化した製品であり、輸送時の燃料削減にも役立っています。



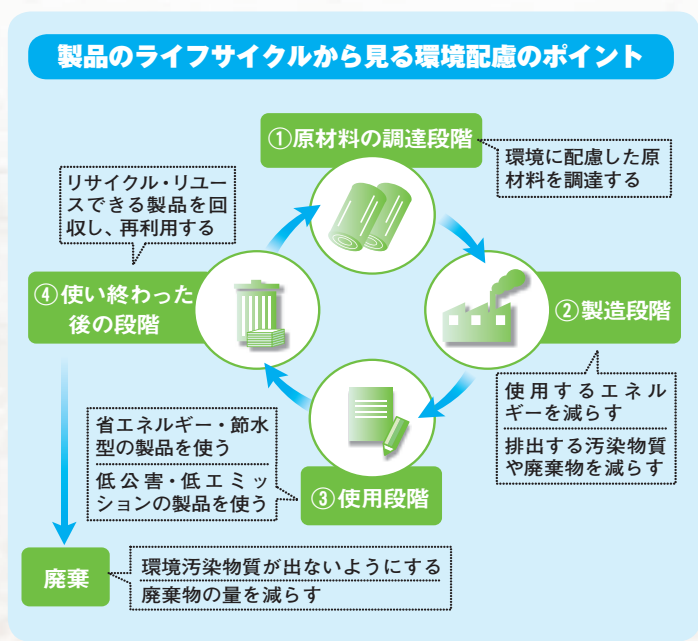
紙を素材として利用した通い箱

物質の削減」など様々な環境問題に配慮した製品が作られています。

このようにエコプロダクツには様々な切り口があり、見方を変えると違った側面が見えてくることもあります。できるだけ広く環境に配慮するためにも、幅広い視点を持って何が環境にやさしいのか検討することが重要です。

ライフサイクルを通した環境配慮

エコプロダクツを考えると、もう一つ重要な切り口があります。それは、①原材料の調達段階、②製品を製造する段階、③製品を使用する段階、④使い終わった後の段階といったような製品のライフサイク

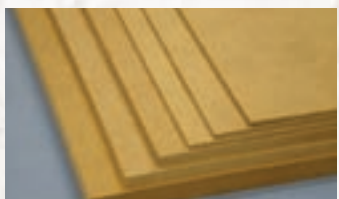


日本製紙グループは「エコプロダクツ2008」に出展しました。再生紙作りを体験できる紙すきコーナーには、多くの人が集まりました。

◆間伐材を利用したMDF(中質繊維板)

エヌ・アンド・イー(株)

「MDF」は木材チップから繊維を取り出し、接着剤で固めた板材であり、優れた加工性を持ち、化粧用台板などに適した木質ボードです。特に「NEOボードS」は原料の半分以上に国産材を使用し、間伐材も積極的に使用することにより、日本の森林育成、ひいては地球温暖化対策にも貢献しています。



間伐材を利用したMDF

◆白い紙ひも

北上製紙(株)

古紙から作られる「白い紙ひも」は、リサイクルができないポリひもと代替することでゴミの減量につながります。ゴミ処理費用の削減を目的に、新聞紙などをポリひもで縛って捨てることを禁じる自治体も増えており、こうした取り組みの一助となっています。



新聞紙を縛る際などに使われる紙ひも

難民問題は他人事ではなくて身近な問題だと思います。

女優・菊川怜さんに、ケニアの難民キャンプを視察して考えたことについて語っていただきました。

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)のスペシャルサポーターとして、2005年1月に1週間ほどケニアのダダブ難民キャンプを訪問しました。ダダブには3つの難民キャンプがあって13万人もの難民が暮らしているのですが、その大半が隣国のソマリアから内戦を逃れてやってきた人々に占められています。

目の当たりにした現実を1人でも多くの日本人に伝えることで難民の苦悩に対する関心を高めたいという思いから、駆け足でいろんなところを回りました。難民の家族と過ごして家事を手伝ったり朝食を共にしたり、病院へ行ってマラリアや栄養失調などに苦しむ子どもたちにも会いましたし、学校で元気な子どもたちともふれあいました。各難民キャンプにはケニア政府公認の学校がいくつかあって、約5,000人の子どもたちが8年間の初等教育課程に通っていると聞きました。

紙ということ言えば、ボロボロに使い古された教科書を使って勉強している様子がすごく印象的でした。私たち日本人だと1人に1冊の教科書があって、きれいなノートもあるのが普通ですが、難民キャンプでは先輩から代々引き継いだ1冊の教科書を3人ぐらいのグループで使いながら勉強していました。

水や食料、それに火を熾すための木もすべてが配給制で、栄養成分的にバランスがとれた食事を摂っているとは思いませんでしたし、難民キャンプに配給するための木を伐採するだけでも森林が破壊されて問題になっていると聞いてびっくりしました。火は生活に必要ですから燃料の木を配給しないわけにはいかないし、森

林を守りながら限りある資源を大事に使っていくしかないと思うのですが、難しい問題ですね。

もうひとつ驚いたのは子どもたちが描いた絵です。日本から画用紙を持って行って「故郷」の絵を描いてもらったんですね。故郷と聞いて私たち日本人が連想するのは美しい山河だったりすると思うのですが、彼らが描いたのは家族が銃撃されて血を流しているような絵ばかりで、それにはびっくりしました。私には想像を超えるものでし、難民キャンプを出て故郷へ帰りたと言っても命に危険が及ぶから無理なわけで、先の見えないトンネルの中で暮らしているんですね。でも、日々、楽しんで生きているのも事実で、すごいなあと思いました。絵を描くときだけは笑顔を失ったんですが、サッカーをやって遊んでいるときは笑顔だし、「夢」を聞くとみんな顔がキラキラして、学校の先生になりたいとか、お医者さんになりたいとか、政治家になりたいとか、サッカー選手になりたいとか、出口が見えなくてもこうしたいんだという夢を持っている子どもたちの力強さに感動しましたし、すごいパワーがあるなと逆に励まされました。

私たちはたまたま安全に暮らしているけど、いつ何がどうなるかわからないし、地球温暖化にしてもCO₂を出しているのは先進国だけど、被害を受けるのはアフリカの人たちだったりして繋がっているんですね。難民キャンプを訪問するまでは遠い世界で起こっている他人事だと思っていたんですけど、同じ地球で生きていて隣のドアひとつ隔てたところの問題なんだという意識を持ちました。難民問題を考えていくことは、自分たちの明日を考えていくことと一緒にだなんて気がします。



PROFILE

きくかわ・れい

1978年埼玉県生まれ。東京大学工学部建築学科卒業。在学中に「'98 オスカーグラフィアグランプリ」を受賞し、東シのキャンペーンガールとしてモデルデビュー。99年にはドラマ「危険な関係」で女優デビュー。現在は女優としてドラマ、映画、舞台で活躍するほか、キャスター、司会としても活躍中。また、2004年にはUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)のスペシャルサポーター、06年に日本ボツワナダイヤモンド親善大使、07年に日モンゴル親善大使に就任するなど芸能以外の分野でも幅広く活躍している。

ケニアの難民キャンプで子どもたちとふれあう菊川さん。



環境・社会活動カレンダー【2008年9月～12月】

- 9月12日 飛鳥山薪能の開催に協力(日本製紙総合開発)
- 9月27～28日 「丸沼高原 森と紙のなかよし学校」を開催
- 10月30日 日本製紙グループ「サステナビリティ・レポート2008」を発行
- 11月25日 東京都美術館主催のフェルメール展「障害がある方々の特別鑑賞会」にボランティア参加
- 12月11～13日 「エコプロダクツ2008」に出展

「サステナビリティ・レポート2008」を発行

2007年度の日本製紙グループのCSR(企業の社会的責任)に関わる取り組みをまとめた「サステナビリティ・レポート2008」を発行しました。発行にあたり、網羅的な報告につとめた「詳細版」と重要テーマに関する主要な取り組みをまとめた「ハイライト版」を作り分けました。また、巻頭に古紙パルプ配合率等の不当表示問題と、ばい煙問題に対する再発防止対策の進捗状況を最優先の報告事項として12ページにわたり報告しています。



編集後記

環境問題への対策を考える際には、様々な角度から問題を捉えることが求められています。たとえば、近年導入の進むバイオエタノール。地球温暖化防止への貢献が期待される一方、サトウキビなど食料を原料としたバイオエタノールでは、食料問題への影響や耕地面積の拡大に端を発した森林破壊などの悪影響を危惧する声も上がっています。環境のため、地球のための活動が、結局は環境破壊につながってしまうことがないように、幅広い視点、長期的な視野を持ちながら環境について考えていく必要があることを感じました。(笹間)

お問い合わせ先

株式会社日本製紙グループ本社 CSR本部 CSR部 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル) TEL: 03-3218-9321
ホームページ: <http://www.np-g.com/inquire/> (お問い合わせ) <http://www.np-g.com/appliform/> (資料請求)



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%